１３	豊橋	鷹丘小学校	マツオ　マユ 名前　松尾　麻由

分科会番号	８	分科会名	音楽教育

友達と関わりながら追求し、音楽表現の技能を身につけ、思いを大切にしながら
主体的に音楽活動に取り組む子の育成
６年音楽「思いをこめて！届けよう、“最高”の合唱！」の実践を通して

１　主題設定の理由

本学級は、歌うことが好きな児童が多い。一方で、「この曲の特徴は何だろう」「どんな気持ちで歌いたいのかな」と問うと、答えられず、固まってしまう児童がほとんどだ。１学期に学習した「ペガサス」では、強弱記号がいくつも出てくることに気づいた児童の発言から、強弱を意識して歌うことになった。強弱をつけることで表現が豊かになることを実感する児童がいる一方で、「わかっていても歌ってみると難しい」と、表現することの難しさを振り返りに書く児童もいた。また、「作曲家はどうしてこの強弱をつけたのだろう」と問うと、考え込んでしまい、結局結論は出なかった。これは、これまで聴き取ったことや感じ取ったことを言葉で表現する経験や、どうしてこのような表現になっているのかを考える経験が少なく、うまく共有できていないことに要因があると考えられる。

そこで、このような子どもたちに、目標となるような姿を提示したり、心を動かされるような曲と出合わせたりすることで、「こう歌いたい」と自分なりの思いをもてるようになってほしいと考えた。また、それを表現するにはどうしたらよいか、みんなで話し合いながら試行錯誤する経験を通し、イメージをもって音楽表現をする楽しさを味わってほしいと考えた。さらに、思いと表現とが一致しているか確かめ、思いや意図の言語化、言葉や音楽で伝え合う活動、試して自分たちの歌声を振り返る活動を適切に位置づけることで、ふさわしい表現を工夫することができると考えた。

友達と関わりながら試行錯誤を重ねることを通して、友達とともに音楽を作り上げる喜びや達成感を感じながら、思いをもって表現する児童の育成に迫りたいと考え、本主題を設定した。

２　研究目標および計画

（１）目ざす子ども像

○思いと音楽表現を結びつけながら、表現することができる子
○友達と試行錯誤しながら音楽をつくる喜びやできたときの達成感を感じ、意欲的に音楽活動に取り組むことができる子

（２）研究の仮説

追究意欲をかりたてられるような曲と出合わせ、友達と関わり合いながら表現を試行錯誤する学習を展開すれば、友達とともに音楽を作り上げる喜びや達成感を感じ、思いをもって音楽表現しようとする子どもを育成することができるだろう。

（３）研究のてだて

＜てだて１＞　追究意欲をかりたてられるような曲との出合わせ

てだて１－①　目標となる姿の提示

「こんなふうに歌いたい」と意欲を高められるように、単元に入る前のお話タイムで、他の小学校の児童が表情よく、表現を工夫して「いのちの歌」を歌う映像を見せる。そのうえで、「鷹丘発表会で

どんな合唱をしたいか」について話し合う場を設け、互いの思いを共有できるようにする。

てだて１－②　心を動かされる曲との出合わせ

子どもたちが「どうして心が動くのだろう」「どのように歌うと聴き手の心を動かすことができるのだろう」と追究意欲をもてるように、生きることの意味を歌い上げる歌詞と、そのメッセージを伝える美しい音楽とが一体となり、多くの人の心を動かしてきた「いのちの歌」を題材とする。出合わせる際、初めは歌詞に着目できるように、歌詞だけを提示して鑑賞させ、歌詞をかみしめながら聴けるようにする。その後、歌詞だけが心を動かす要因なのかを考えさせることで、歌詞と音楽の構造とが相互に補完し合って感情や情景を生み出していることに気づくことができるようにする。

＜てだて２＞　友達と関わり合う学習の展開

てだて２－①　拡大楽譜を活用して思いを言語化、共有する場の設定

互いの思いや考えを視覚的に捉えられるように、拡大楽譜を活用し、「どこで心が動いたのか」「どうしてそう歌いたいのか」などを全員が把握できるようにする。また、拡大楽譜に心が動いたところを丸シールで貼ったり、思いや考えを書きこんだりすることで、新たな気づきを促したり、子どもたちの思いを蓄積したりできるようにする。

てだて２－②　歌声を振り返りながら、友達と関わり合って表現を深める場の設定

話し合いをする際には、自分の思いを言葉や音楽で伝え合うことと、実際に歌って音で確かめてみることを繰り返しながら．曲の特徴にふさわしい表現を工夫できるようにする。その際、自分たちの歌声を客観的に聴くことができるように、録音機器やタブレットの録画機能を使って録音・録画したり、二つのグループに分かれて互いに聴きあったりする活動を取り入れる。自分たちの歌声を振り返りながら、どのように表現すると自分たちの思いが伝わりやすいのか追求できるようにする。

（４）抽出生徒について

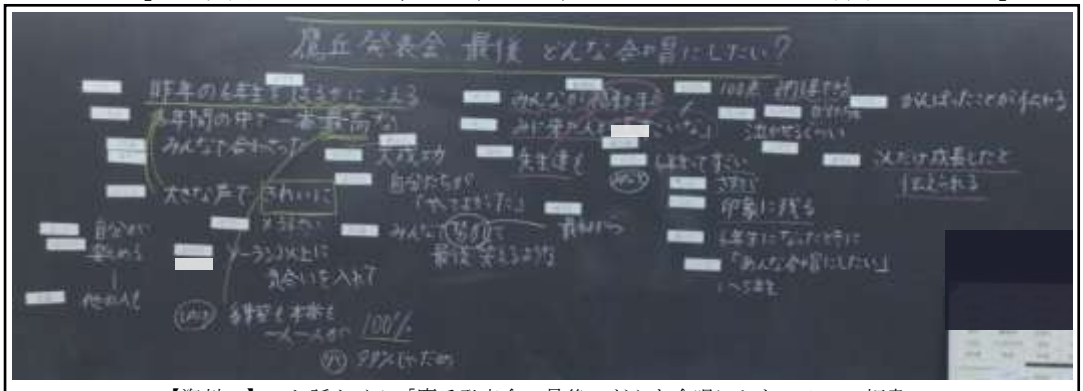
A児は、行事をはじめ、さまざまな活動に意欲的に取り組むことができる。運動会では、A児の熱い思いに心を動かされた児童が何人もいた。授業でも学習課題について真剣に考えているが、音楽の授業では、思いはある一方、表現の仕方はわかっていないことが多い。このようなA児には、友達のさまざまな考えにふれ、音楽表現を高めてほしい。さらに、音楽表現と自分のイメージとを結びつけながら、自分の思いを表現できるようになってほしい。

（５）題材構想（最終ページに記載）

３　研究の実際と考察

（１）小学校最後の鷹丘発表会で、どんな合唱がしたいのかな＜てだて１－①＞

「みんなに見せたいものがあるんだ」そう言って、子どもたちに映像を見せると、「何これ！」と言う声の後、すぐに静かになった。そこには、真剣なまなざしで、一生懸命に歌う他校の児童の姿を見つめる子どもたちの姿があった。見終わった後、「この映像はね、他の小学校の５年生が歌っているところなんだ」と言うと、驚きの声が上がった。「みんなも２学期には鷹丘発表会があるね。最後の発表会、どんな合唱にしたいかな」そう問いかけると、「昨年の６年生をはるかに超える合唱にしたい」「みんなを感動させたい」「これだけ成長した、と伝わるようにしたい」などの意見が出てきた【資料１】。A児は、「（運動会で踊った）ソーラン（節）以上に気合を入れて」「練習も本番も一人一人が１００％でやりたい」と話しており、運動会同様、行事に対

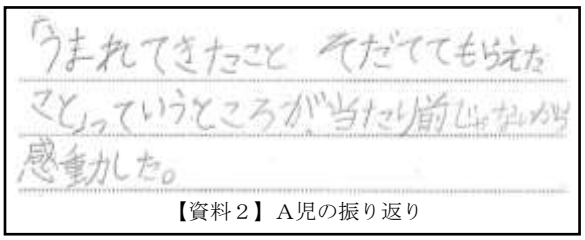


【資料１】　お話タイム「鷹丘発表会、最後、どんな合唱にしたい？」の板書

して熱い思いをもっていることがわかった。

（２）「いのちの歌」との出合い＜てだて１－②＞

音楽の時間、何も言わずに「いのちの歌」の歌詞を貼り、楽曲の音源を流すと、子どもたちは、歌詞をまっすぐに見つめながら聴いていた。聴き終わった後、「どんなことを思ったかな」と聞くと、「さみしいけど温かい感じがする」「優しく歌っているところがいい」「感動した」などの意見が出た。そこで、「感動したって言っているけど、どうして心が動いたのかな」と問いかけると、ある児童が「歌詞が感動するからじゃないかな」と答えた。他の子どもたちも賛同している様子だったため、振り返りに「どの歌詞に心を動かされたのか」を書くことにした。A児の振り返りには、「『うまれてきたこと そだててもらえたこと』っていうところが、当たり前じゃないから、感動した」と書かれており【資料２】、歌詞の内容に自分を重ねていることがわかった。

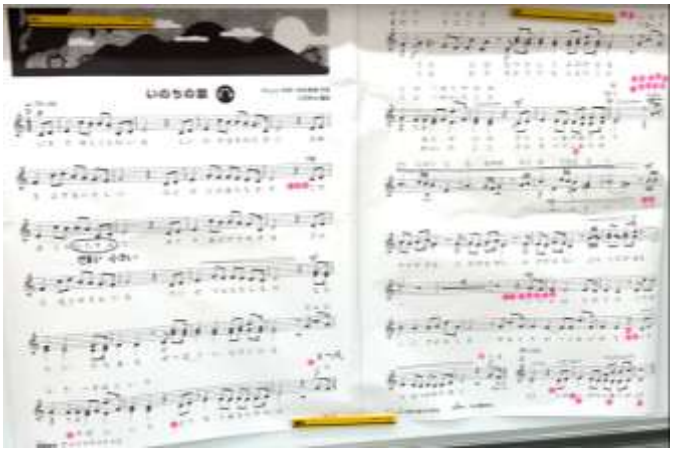


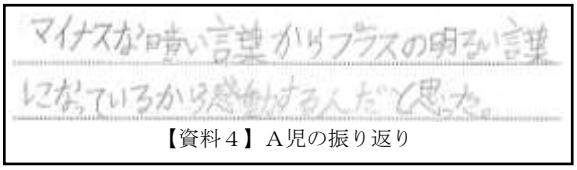
【資料２】A児の振り返り

（３）どの歌詞に心を動かされたのかな

＜てだて１－②、２－①＞

次の時間、前時に個人で考えた「どの歌詞に心を動かされたのか」について共有する場を設けた。まず、拡大楽譜にそれぞれが心を動かされた歌詞について丸シールを貼っていき【資料３】、次に、「どうしてその歌詞に心をうごかされたのか」を伝え合った。子どもたちからは、「『寄り添うあなたの影』という歌詞が、辛いときでも寄り添ってくれる感じがしていいと思った」「『いつかは誰でも』からのところが、歌詞が感動的でうるっとくる」「『ありがとう』は感謝の言葉だから、心が動く」などの発言が出てきた。その後、話し合いの中で、「悲しい感じの歌詞からポジティブな歌詞になるところが多いから、心に響く」と言う意見を聞くと、A児は「たしかに」とつぶやいた。この時間の振り返りには「マイナスな暗い言葉からプラスの明るい言葉になっているから感動するんだと思った」【資料４】と書かれており、A児が友達の考えに共感して、考えをふくらませていることがわかった。

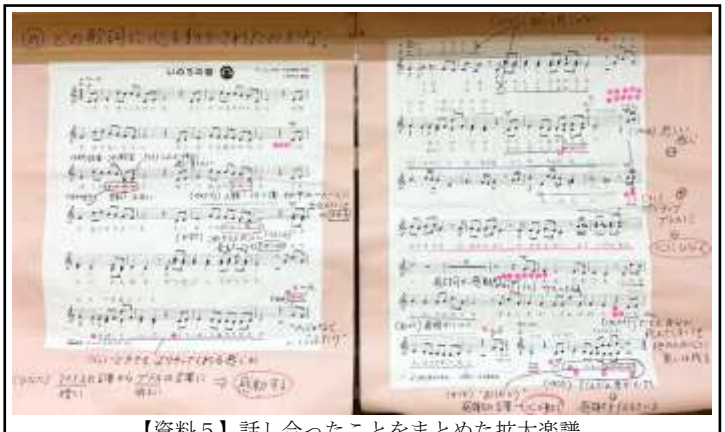

【資料３】拡大楽譜に丸シールを貼ったところ



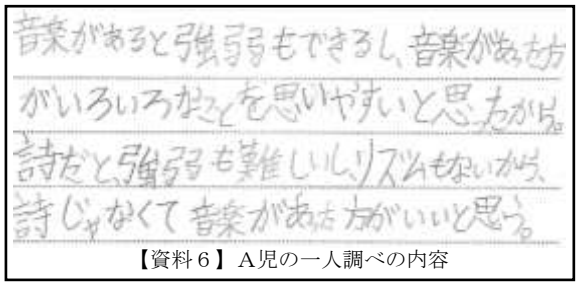
【資料４】A児の振り返り

（４）歌詞だけが心を動かす理由なのかな＜てだて１―②、２－①＞

前時の振り返りに、「歌詞だけじゃなくて、最後のところはだんだん音が小さくなるから、感謝を伝えている感じがすると思う」と書いた児童がいたことから、授業の始めに、前回話し合ったことや振り返りをまとめた拡大楽譜【資料５】を提示し、「本当に素敵な歌詞がたくさんあるけど、詩だけではだめなのかな」と問いかけた。すると、「えー」と戸惑う様子が見られた。そこで、詩だけ朗読したものと、歌ったものを教師が実演し、実際に比較させた。すると、「詩だけじゃだめだよ」「音楽にするから、より感動すると思う」という意見が出てきた。そこで


【資料５】話し合ったことをまとめた拡大楽譜

「音楽にすると、どんなよさがあるのか」を課題として、考えていくことにした。一人調べをした際、A児は、「音楽があると強弱もできるし、音楽があった方がいろいろなことを思いやすいと思ったから。…詩じゃなくて音楽があった方がいいと思う」という思いをもっており【資料６】、漠然と音楽があることのよさを感じていることがわかった。


音楽があると強弱もできるし、音楽があった方がいろいろなことを思いやすいと思ったから。詩だと強弱も難しいし、リズムもないから、詩じゃなくて音楽があった方がいいと思う。

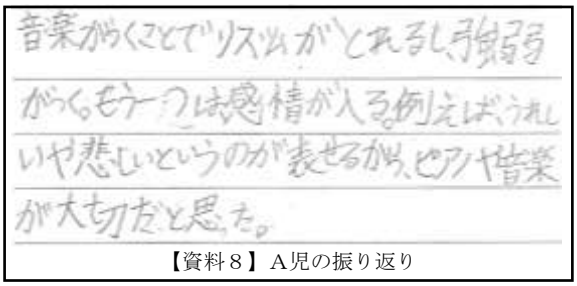
【資料６】A児の一人調べの内容

（５）音楽にすると、どんなよさがあるのかな
＜てだて２－①、２－②＞

第５時は、前時に一人調べをした、「音楽にするとどんなよさがあるのか」について話し合った。初めは「『本当に大事なものは』からは、曲だからこそいいんじゃないかなと思った」「詩だと棒読みだけど、音程があるとよさがある」など、前時のA児の一人調べ同様、音楽のよさを感じながらも、漠然とした意見が多くあった。子どもたちから出た意見を音で試しながら話し合いを進めていくと、「盛り上がるとより気持ちが伝わる」「ハーモニーができて気持ちよくなる」など、強弱や旋律の重なりなど、具体的な音楽の要素がもたらすよさについて言及する意見が出てきた【資料７】。また、自分たちが心を動かされた歌詞に貼ったシールが多いところには、表現の工夫が多くあることに気づいた児童の発言から、自分たちが心を動かされた要因は歌詞だけではなく、音楽の構造によるところもあることに気づき始めたことがわかる。A児のこの日の振り返りには、「音楽がつくことでリズムがとれるし、強弱がつく。もう一つは、感情が入る。例えば、うれしいや悲しいというのが表せるから、ピアノや音楽が大切だと思った」と書かれていた【資料８】。このことから、漠然とした理由ではなく、音楽の要素や構造から、よさを考えられるようになってきたと考えられる。

T	この前、詩じゃなくて曲になっていた方がいいって言っていたじゃん。音楽にすると、どんなよさがあるのかな。
C１	「本当に大事なものは」からは、曲だからこそいいんじゃないかなと思った。
C２	詩だと棒読みだけど、音程があるとよさが出る。
	…
C３	「生まれてきた」で盛り上がって。
T	（クレシェンドをつけた歌い方とつけない歌い方をする）何かちがう？
C４	盛り上がるとよく気持ちが伝わる。
C５	「けれど」で盛り上がっていくから気持ちが動く。
	…
C６	ハモリも詩にはないね。
T	ハモリってどこ？
C７	最後の「生まれて」でアルトが入ってくるところ。（ソプラノだけとソプラノとアルトで歌い比べる）
T	ソプラノだけど、アルトが入るのとちがう？
C８	ソプラノだけでも気持ちいいけど、アルトが歌うとよりよくなる。
C９	歌う人も聴く人も、ハーモニーができて気持ちよくなる。
	…
T	今、いくつも出してくれたけど、楽譜を見て気づくことはある？
C１０	右側の方が多い。
C	シールの話？（授業の中での子どもの発言を書き込んだ）文字の話？
C１０	どっちも。
T	シールと文字って関係ある？
C１１	みんなが感動したいいところ。
C１２	シールのところは、それだけ工夫のしがいがある。
C１３	曲を作った人も歌う私たちも大切なところ。

【資料７】「音楽にするとどんなよさがあるのかな」の授業記録


音楽がつくことでリズムがとれるし、強弱がつく。もう一つは、感情が入る。例えば、うれしいや悲しいというのが表せるから、ピアノや音楽が大切だと思った。

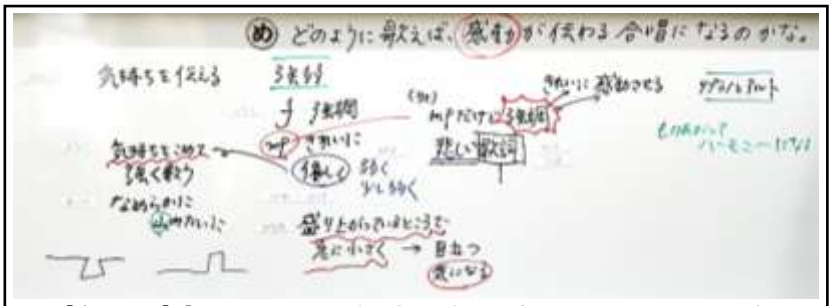
【資料８】A児の振り返り

（６）どのように歌うと、人の心を動かす合唱になるのかな。
＜てだて２－①、２－②＞

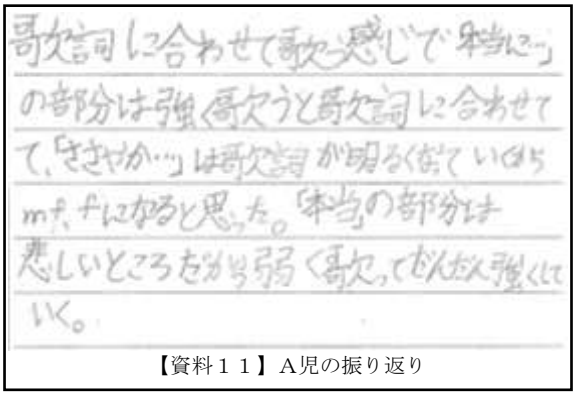
【資料９】パートごと聴きあう様子

第６時からは、一曲を５つの部分に分け、「どのように歌うと人の心を動かす合唱になるのか」、歌い方の工夫について最初の部分から順に考えていった。まず、楽譜を見て音源を聴き、どう歌ったらよいかを考えた。その後、関わり合いの中で出てきた意見について、実際に歌いながら試していった【資料９】。

その前までｆやｍｆだったのに、急にｍｐになるところでは、そこにシールがたくさん貼られていることから、「大切だったら大きくするんじゃないのかな」と問いかけた。すると、「歌詞に合わせている」と言う意見や、「ｍｐだけど強調している」、「盛り上がっているところで急に小さくすることで目立って、聴き手が気になる」などの意見が出てきた【資料１０】。実際に試してみると、「ｆだと変。この部分に合わない」「ｍｐにした方が、聴き手は感動する」という声が上がった。この日のＡ児の振り返りには、「歌詞に合わせて歌う感じで…『本当』の部分は悲しいところだから弱く歌ってだんだん強くしていく」と書かれていた【資料１１】。ここから、この題材を通してＡ児が、ただ記号があるから弱くしようではなく、どうしてこの記号なのか、意味を考えて表現できるようになったことがわかる。



【資料１０】「どのように歌えば、感動が伝わる合唱になるのかな」の板書



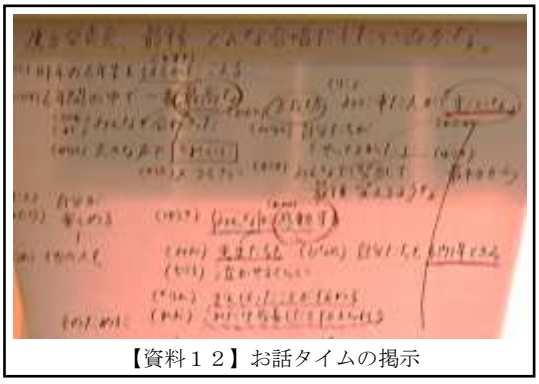
【資料１１】Ａ児の振り返り

５　てだての有効性と仮説の妥当性についての考察

（１）追求意欲をかりたてられるような曲との出合わせについて

① 目標となる姿の提示について（てだて１－①）

これまで他校の児童が歌う姿など見たことがなかった子どもたちは、他の学校の子どもたちが懸命に歌う姿を見て、感化された様子であった。また、その後のお話タイムで「鷹丘発表会でどんな合唱をしたいか」について話し合い、その板書を常に音楽室に掲示した【資料１２】ことで、話し合いの中で「今の歌だとまだ『昨年の６年生をはるかに超える』じゃないよ」など、ところどころお話タイムの内容に立ち返る姿も見られた。目標となる姿を提示し、自分の思いを言語化させ、それをいつも見える位置に掲示しておいたことが、発表会まで継続して気持ちをもち続けることにつながったと考えられる。このことから、目標となる姿の提示は、有効であったといえる。



【資料１２】お話タイムの掲示

② 心を動かされる曲との出合わせについて（てだて１－②）

子どもたち自身が心を動かされたことで、自分たちも同じように聴き手の心を動かしたいと、意欲をもって活動することにつながった。また、「マイナスな暗い言葉からプラスの明るい言葉になっているから感動するんだと思った」【資料４】「みんなが感動したいいところ」【資料７】とあるように、題材として子どもたちの心が動くような曲を取り上げたことは、子どもたち自身が感じたことを根拠にしたり、感じたことを聴き手にも伝えられるように表現の工夫を考えたりすることにつながったと考える。このことから、心を動かされる曲との出会わせは有効であったといえる。

（２）友達と関わり合う学習の展開について

③ 拡大楽譜を活用して思いを言語化、共有する場の設定について（てだて２－①）

拡大楽譜を活用することで、子どもが楽譜を指さして、 どこのことを話しているのかを伝えたり、どこからそう考えたのか、考えの根拠として示したりすることができた【資料１３】。さら

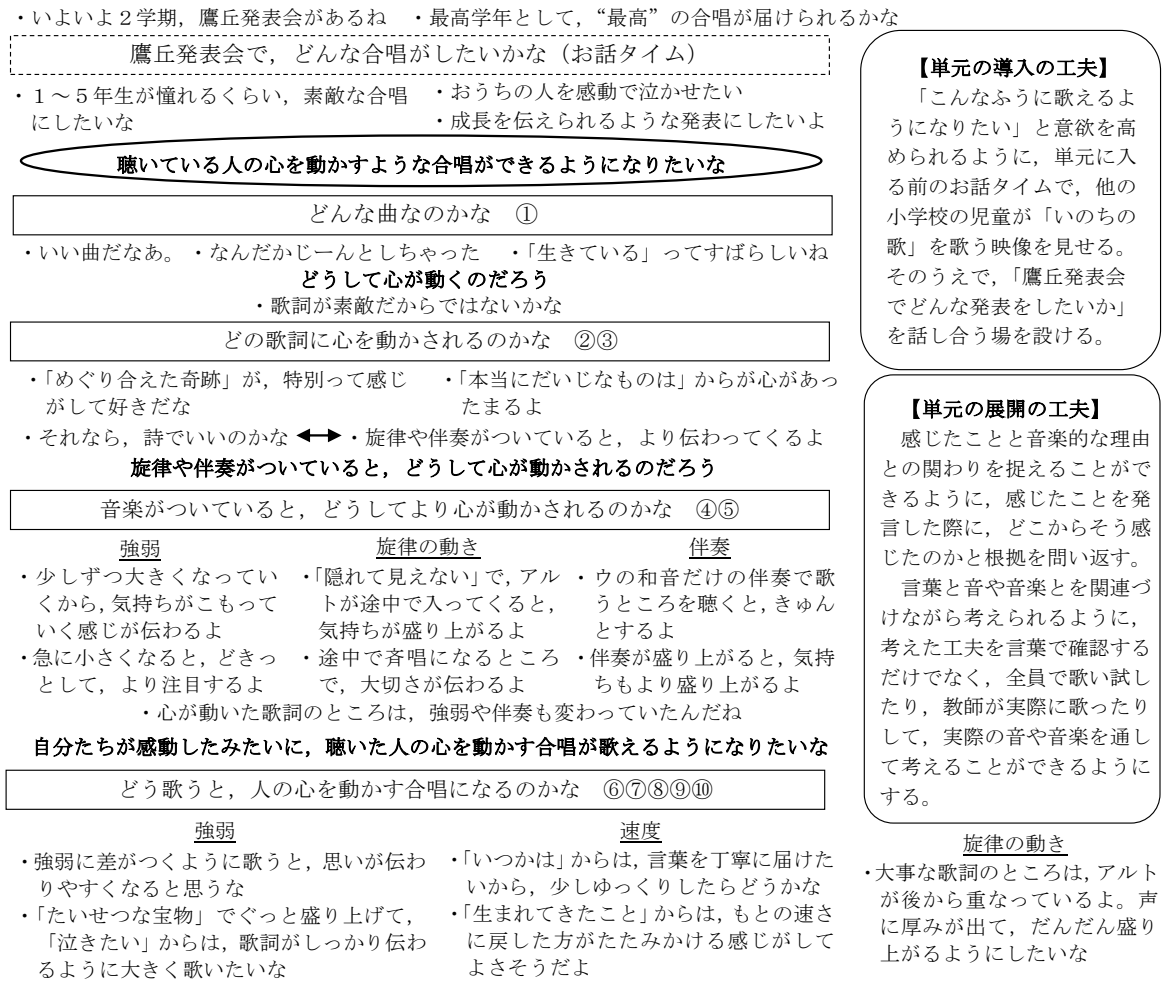
【資料１３】拡大楽譜を指さしながら話す児童

に、子どもの発言に対して教師が問い返しをして、子どもの意見が楽譜のどこから考えられたものなのか、楽譜に立ち返らせながら話し合いを進めることができた。また、心を動かされた歌詞に丸シールを貼ったことで、心が動いた要因が言葉だけではなく、音楽の構造も関係していることに気づかせることができた【資料７】。これらのことから、拡大楽譜を活用して思いを言語化、共有する場の設定は有効であったといえる。

④ 歌声を振り返りながら、友達と関わり合って表現を深める場の設定について（てだて２－②）

これまで、自分たちの歌声を振り返ったことがほとんどなかった子どもたちは、初めは録音することに抵抗がある様子だった。しかし、何度も繰り返すうちに、だんだん自分たちの歌声を聴いて、自分たちでよりよい表現を探ることが増えていった。また、完成した合唱を発表する場があったことで、他者意識をもって、自分たちの思いを伝えようと音楽表現の仕方を工夫していくことができたと考える。このことから、歌声を振り返りながら、友達と関わり合って表現を深める場の設定は有効であったといえる。

４ 研究の成果と今後の課題

発表会の後、「お母さんがね、感動したって」とうれしそうに教えてくれる子どもがいた。子どもたちのがんばりが保護者に伝わったのだととてもうれしかった。これは、自分たちが感じた感動をどうしたら聴き手に伝えることができるのか、意欲をもって追求することができたからだと考える。今回の研究では、題材選びや展開を工夫することで、思いをもって表現することのよさを感じることができた。今後は、器楽演奏や音楽づくりなどの活動においても、ここでの学びを生かし、思いをもって表現できるような授業実践に取り組んでいきたい。

題材構想図（１０時間完了）